

第3回

資料1

・ 検討委員会設置要綱	・・・ 1
・ 検討委員会委員名簿	・・・ 2
・ 主な検討事項	・・・ 3
・ 第2回検討委員会の主な意見	・・・ 4
・ 県立高校（全日制）の学区別配置状況	・・・ 7
・ 県立高校（全日制）学区別募集学科構成	・・・ 8
・ 各学科の定員割合の推移と全国状況	・・・ 9
・ 普職比率と学科別募集定員の推移	・・・ 10

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討するため、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項について検討する。

- (1) 県立高校の教育の充実に関すること。
- (2) 普通科や職業科などの各学科のあり方に関すること。
- (3) 令和2年度新高校開校に係る評価に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、県立高校のあり方に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員16名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者のうちから、教育長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。

3 委員長は、会議を進行する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある時は、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、教育長が招集し、委員長が議長となる。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、令和4年3月31日までとする。

(アドバイザー)

第7条 専門的立場からの意見を聴くため、委員会にアドバイザー若干名を置くことができる。

2 アドバイザーは、学識経験者のうちから、教育長が委嘱する。

3 アドバイザーは、教育長の要請に応じて委員会に出席するほか、委員会の所掌事務に関する事項に対して助言を行うものとする。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置く。

2 幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから、教育長が任命する。

3 幹事は、委員会の事務を処理する。

(事務局)

第9条 委員会の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

(細則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は、令和3年8月31日から施行する。

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会名簿

(令和4年2月9日現在)

(委員16名、五十音順、敬称略)

役 職	氏 名	委 員 の 所 属 等
委員長	金岡 克己	(公社)富山県教育会 会長 (学)富山国際学園 理事長
副委員長	牧田 和樹	射水商工会議所 会頭 (一社)全国高等学校PTA連合会 顧問
委 員	伊東潤一郎	アイティオ(株) 代表取締役社長
委 員	稲田 裕彦	救急薬品工業(株) 代表取締役社長
委 員	尾畑 納子	富山市教育委員会 教育委員
委 員	河上めぐみ	(有)土遊野 代表取締役
委 員	近藤 智久	高岡市教育委員会 教育長
委 員	品川祐一郎	トヨタモビリティ富山(株) 代表取締役社長
委 員	白江 勉	砺波市教育委員会 教育長
委 員	白江日呂雄	富山県中学校長会 会長
委 員	鈴木真由美	(大)富山県立大学 地域連携センター所長 富山県立大学工学部機械システム工学科 教授
委 員	須田 英克	富山県私立中学高等学校協会 会長
委 員	能作 千春	(株)能作 専務取締役
委 員	堀井 鉄也	富山県高等学校PTA連合会 会長
委 員	本江 孝一	富山県高等学校長協会 会長
委 員	本島 直美	富山県PTA連合会 副会長
アドバイザー	大島 まり	東京大学大学院情報学環／生産技術研究所 教授
アドバイザー	耳塚 寛明	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 特任教授

魅力と活力ある県立高校のあり方に係る主な検討事項

中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討する。

《検討事項》

- 1 将来展望に立った県立高校のあり方
 - ・時代のニーズに即し、将来展望に立った県立高校のあり方 ← 第1回

- 2 高校教育充実のための方策
 - ・職業系専門学科の現状と今後のあり方 ← 第2回
 - ・普通系学科の現状と今後のあり方
 - ・総合学科の現状と今後のあり方
 - ・様々なタイプの学校・学科のあり方 ← 今回（第3回）

- 3 令和2年度新高校開校に係る評価
 - ・新高校の状況報告等
 - ・新高校在籍生徒等に対するアンケート調査結果についての評価、検討等

- 4 その他、県立高校のあり方に関すること
 - ・県立高校のニーズ調査についての検討等
 - ・定時制、通信制のあり方等
 - ・その他

第2回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会における主な意見

1 日 時 令和3年11月2日(火) 午後1時～午後3時

2 場 所 富山県民会館401号室

3 議 題 将来展望に立った県立高校のあり方について

4 職業系専門学科の現状と今後のあり方についての意見交換(主な意見)

○技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化を踏まえた職業系専門学科のあり方について

(全体)

- ・仕事を通じて社会の役に立つ、1人でも多くの人を幸せにする、ウェルビーイングを作っていく本質的な部分を、職業教育の中で、技能、技術の教育に加えて伝えていくことを検討してもらいたい。
- ・関連以外のところに就職しても全く問題ないと思っている。効率から言うと問題があるかと思うが、教育は本来、気づきと胸落ちのものだ。あの時に聞いていたのはこういうことだったのかと理解できる、教育は20年、30年、人生において響いてくるものだ。
- ・職業教育を普通科の中に入れ込むという新しいあり方で、普通科の中で別の学科をつくることもできるようだ。そういう形でバランスを考えることがこれからの議論になる。少なくなるから廃止のような極論だけは避けていただきたい。
- ・働くとは、自分に与えられたものを好きになる力ではないか。今その場にいた時に、それを好きになることができる教育の手法を取っていかない限りは、高校を出た生徒の定着率は上がっていかないと感じている。
- ・卒業後の進路を問わず、専門科目と普通科目の両面で基礎的な教育を授けるといった位置づけにおいて、ある程度の専門学科を当面残しておくことが必要である。
- ・教育課程の中で、普通科や色々な学科の生徒たちが一つのプロジェクトに挑戦するような取り組みはできないか。フィールドに、企業や大学、どこかの学校を活用する取り組みができると良い。
- ・職業科でも進学者が増加する中で、職業科本来の意義を考え直すことも必要だが、職業科で育まれる優れた教育を活かしつつ、職業課程の専門教育を支える教養教育(高校での主要5科目ばかりではない)の付与の必要性、座学の導入を推進してほしい。
- ・現実社会から直接学ぶ単位認定の集中講座の開催やICTの積極的な活用、校舎をサテライト会場として専門家から直接学ぶりモート授業の実施など多様な学び方を期待する。

(各学科)

- ・どうしたら、農業に関心を持ってもらい、入学志願者を増やせるかと思う。最新技術を取り入れた農業や、地元扎根することは大前提で、これにプラスして、世界に通ずる食料を日本で育てる、世界と直結している仕事、産業であるという位置取りを農業高校生に感じてもらえる機会があったら良い。

- ・農業高校の中だけで勉強しては、本人たちはやっていることの素晴らしさを感じることが少ない。県外、異学科の子ども達や、食をビジネスとしている大人、世界の他の国の農業を学んでいる子ども達と交流し、専門性を突き詰めるというよりは、農業という仕事の幅広さを知るという方向性が体感できる特色があると良い。
- ・農業科の肉体労働以外の部分、企業や大学との連携、先端技術の活用、バイオに関する研究、食のブランドビジネス、経営者育成などに焦点を当て、成長産業に関わる学校・学科としての魅力発信をホームページやパンフレット、オープンハイスクールではどうかと思う。
- ・一次産業、特に農業はどちらかと言えば経営規模が小さく、会社に勤めるというよりも、いきなり経営者になる可能性もある。こういう仕事を、中学生が農業高校を選ぶ時にどこまで想定できるかという、なかなか難しいものがある。
- ・寮生活は自立ができる場所であり、人として成長できるところでもある。生徒にとって、この体験は貴重なことだと思う。
- ・農業科と水産科は、5人に1人しか関連就職、関連進学していないことを、非常に重要な問題としてとらえていく必要があるのではないかなと思う。
- ・学校で学ぶことと、社会で必要とされていることに大きなギャップがある。
- ・企業の力を使って、ものづくりの魅力や農業の魅力を伝えることを、もっとしてもらいたい。
- ・工業科の機械系や電気・電子系という学科名を見た時に、実際この学科で何が学べるのか分からなかった。中学生も、機械系などの区分けを見ても、おそらくピンとこない生徒がほとんどではないかなと思う。高校に入ってから将来を決めるのは、個人的には早い気がする。生徒は、本当に色々なことに興味があり、その興味をいかに引き出すかがより重要になってきているのではないかなと思っている。
- ・富山県が取り組んでいる17歳の挑戦などを、もう少し、インターンシップのような形で企業に入り込んだ取り組みをしてはどうか。1日、2日程度ではなく、例えば1週間、2週間という形で企業に預けるのも、これからの子ども達の成長、一つの糧になるのではないかなと思っている。
- ・商業の簿記や会計のような知識を学んだ上で、自分の将来の職業観、人生観も考えるような、あるいは学ぶカリキュラムを工夫してほしい。
- ・職業科というくくりは、それほどこれからこだわる必要はないのではないかな。普通科に行っても家庭科で学ぶような内容のところへ進学できる。もう少し大胆な学科の見直しを提案したい。
- ・基本的に家庭科関連教育が作られた時代の職業教育には、家庭科も入っていた。家庭のプロフェッショナルということが、本当は今、大事だと思うが、産業教育の中での家庭科教育が、時代的に名称などが合わなくなっていると思う。
- ・今どきの子ども達は手先が器用ではないので、家庭科の中でこれまで指導されてきた縫製技術的なものや調理・食物的な分野を、将来の職業教育の中の基礎教育に位置付けていくのも良いのではないかなと思う。
- ・看護科は方向性が極めて明確なので、全く問題ない。むしろもう少し数を増やして欲しい。

- ・福祉科の方も必要性が高いという社会的な方向性になっているが、もう少し社会的地位が高まるような魅力発信をしていく必要がある。
- ・地域を誰が支えていくのかと考えると、例えば看護や福祉の分野など、もう少しその魅力を伝えながら残していくという方向性が、地域との関連において大事である。

○中学校卒業予定者数の減少に伴う職業系専門学科のあり方について

- ・将来、生徒の人数がさらに減少し、極端な例だが、県内に1クラスずつしか専門学科を設置できない状況となった場合、共通の科目を近隣にある複数の異なる学科が合同で授業を実施する可能性について、そのメリット・デメリットを検討する時期に近づきつつあるのかもしれない。
- ・学区ごとに各学科があるが、このままでは小さくなって、廃れていくので各学科をまとめて大きく集約する方法を考えてはどうか。少子化人口構造の中、ある程度の生徒数をまとめないとクラス運営は困難であり、コストバランスも悪くなる。
- ・従来の形を維持したまま、人口が減って、子ども達が減っていくと、歪みが大きくなってしまう。
- ・子ども達は、現実、行きたい高校、行きたい職業科に本当に進学しているのかという問題が一番大きい。
- ・中学生の意識調査を実施し、進学校、普通科、職業系専門学科への進学希望状況や将来の夢などを把握してはどうか。その結果を踏まえて今後のあり方を検討したい。
- ・高校生の意識調査を実施し、高校進学に対してどんな観点で志望校を決めたか、中学3年生に対してアドバイスしたいことなどを聞いて欲しい。

(文責 県立学校課)

県立高校（全日制）の学区別配置状況

令和4年度

学級数/学年（学校数）		新川学区	富山学区	高岡学区	砺波学区
8学級	(1)		富山工業 (工8)		
7学級	(5)		富山 (普5探2)	高岡 (普5探2)	南砺福野 (普4国1農1福1)
			富山中部 (普5探2)	高岡工芸 (工7)	
6学級	(5)		富山北部 (普3工2商1)	氷見 (普3農水1商1家1)	
			富山商業 (商6)		
			富山東 (普6)		
			呉羽 (普6)		
5学級	(6)	入善 (普4農1)	富山いずみ (総4看1)	高岡商業 (商5)	
		桜井 (普3工1家1)	富山南 (普5)		
		滑川 (普2工1商1水1)			
4学級	(11)	魚津 (普4)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	砺波 (普4)
		上市 (総4)	富山西 (普4)	新湊 (普3商1)	砺波工業 (工4)
		雄山 (普3家1)		高岡南 (普4)	石動 (普3商1)
3学級	(5)	魚津工業 (工3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	
				伏木 (国3)	
				福岡 (普3)	
2学級	(0)				
1学級	(1)				南砺平 (普1)
学級数	163	30	67	46	20

()は、1学年の学級数

県立高校（全日制）学区別募集学科構成

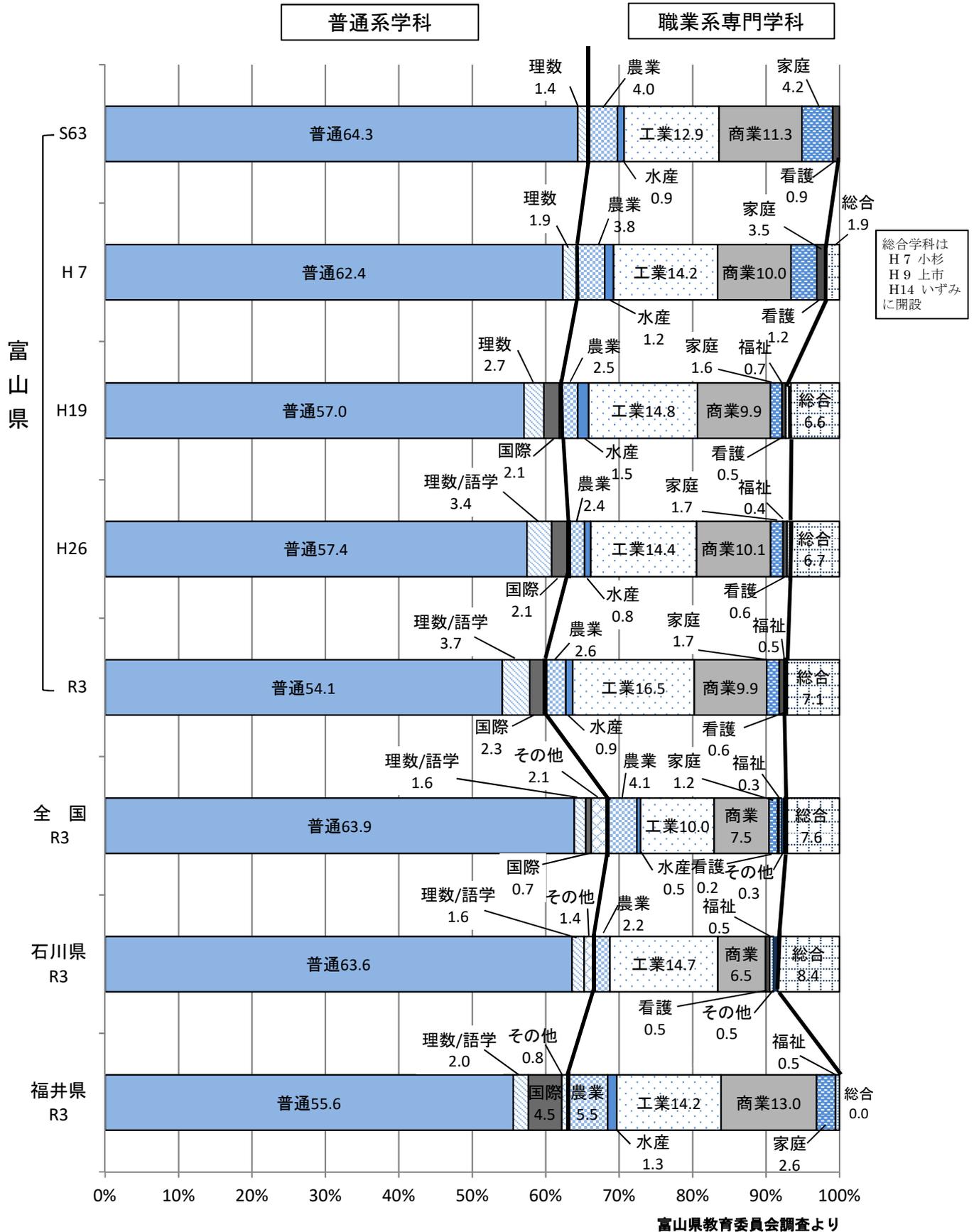
大学科	学級数	定員	小学校	新川学区			富山学区			高岡学区			砺波学区				
				学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員		
普通系学科	普通	87	3,460	入善 魚津 桜井 雄山 滑川	4 4 3 3 2	160 160 120 120 80	富山東 呉羽 富山 富山中部 富山南 八尾 富山西 富山北部	6 6 5 5 5 4 4 3	240 230 200 200 200 160 160 120	高岡 高岡南 大門 新湊 福岡 氷見	5 4 3 3 3 3	200 160 120 120 120 120	砺波 南砺福野 石動 南砺平	4 4 3 1	160 160 120 30		
	理数・英語	6	240	理数科学・ 人文社会科学	*1		富山 富山中部	2 2	80 80	高岡	2	80					
	国際	4	150	国際 国際交流						伏木	3	120	南砺福野	1	30		
	計	97	3,850			16	640		42	1,670		26	1,040		13	500	
職業系専門学科	農業	6	158	農業 生物生産 園芸デザイン バイオ技術 農業科学 農業環境	入善	1	30	中央農業	3	78							
	水産	2	60	海洋 海洋科学	滑川	1	40				氷見	1*2	20	南砺福野	1	30	
	工業	26	1,030	機械	魚津工業	1	40	富山工業	2	80	高岡工芸	1	40	砺波工業	2	80	
				機械工学			富山工業	2	80	高岡工芸	1	40					
				電子機械			富山工業	1	40	高岡工芸	1	40					
				電子機械工学			富山工業	2	80	高岡工芸	1	40	砺波工業	1	40		
				電気	魚津工業	1	40	富山工業	2	80							
				電気工学			富山工業	2	80								
				電子											砺波工業	1	40
				情報環境	魚津工業	1	40										
				金属工学			富山工業	1	40			高岡工芸	1	40			
				建築			富山工業	1	40			高岡工芸	1	30			
	建築工学			富山工業	1	40			高岡工芸	1	40						
	工芸								高岡工芸	1	40						
	デザイン・絵画								高岡工芸	1	40						
土木環境								高岡工芸	1	40							
土木	桜井	1	40	富山工業	1	40											
土木工学	滑川	1	40	富山北部	2	80											
商業	16	640	商業 ビジネス 流通ビジネス 国際ビジネス ビジネスマネジメント 会計ビジネス 情報ビジネス 情報デザイン	滑川	1	40	富山商業 富山商業 富山商業 富山商業 富山北部	2 1 1 2 1	80 40 40 80 40	新湊 氷見 高岡商業 高岡商業	1 1 2 1	40 40 80 40	石動	1	40		
家庭	3	110	生活環境 生活文化 生活福祉	桜井 雄山	1 1	40 30					氷見	1	40				
看護	1	40	看護			富山いずみ	1	40									
福祉	1	30	福祉									南砺福野	1	30			
計	55	2,068			10	380		21	798		17	630		7	260		
総合学科	総合	12	460		上市	4	150	富山いずみ	4	150	小杉	4	160				
	計	12	460			4	150		4	150		4	160		-		
総計	164	6,378			30	1,170		67	2,618		47	1,830		20	760		

「令和4年度富山県立学校募集定員等」(R3.7発表)による

*1 理数科学科と人文社会科学科は、探究科学科と総称している

*2 氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに1学級として集計

各学科の定員割合の推移と全国状況（公立高校全日制課程）



*富山県の「理数/語学」は「探究科学科」が該当する。

*普通系学科の「その他」には体育・芸術関係などが、職業系専門学科の「その他」には情報関係などが含まれる。

普職比率と学科別募集定員の推移

	昭和 63 年	平成 7 年	平成 19 年	平成 26 年	令和 4 年
中卒予定者数	19,122 人	14,342 人	10,179 人	10,063 人	8,910 人
<募集定員>	<13,914 人>	<10,434 人>	<7,274 人>	<7,144 人>	<6,378 人>
学校数	46 校	45 校	43 校	38 校	34 校
学級数	320 学級	264 学級	187 学級	181 学級	163 学級

